

第75回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 材料分科会 議事録(案)

1. 日 時: 2015年2月18日(水) 13時30分～16時
2. 場 所: 日本機械学会 第1会議室
3. 出席者: 木村(NIMS)、伊藤(IHI)、井手(東電)、齊藤(中電)、妹尾(関電)、俣野(KHI)
森(新日鐵住金)、清水(MHI)
欠席者: 戸田(NIMS)、菊原(BHK)
事務局: 原

4. 配付資料

- 75-1 第74回材料分科会議事録(案)
- 75-2-1 対比表(KHI、東電、中電、新日鐵住金)
- 75-2-2 許容応力表(関電、新日鐵住金)
- 75-2-3 追補原稿(表Ⅱ-1-2、外圧チャート表G)
- 75-2-4-1 許容応力表(表Ⅱ-1-1、IHI)
- 75-2-4-2 対比表(表Ⅱ-1-1 備考、IHI)
- 75-2-5 対比表(表Ⅱ-2-1、MHI)
- 75-2-6 表Ⅲ-3-3 備考(新日鐵住金)
- 75-3 審議履歴表

5. 議 事

(1) 前回議事録確認

[資料 75-1]

前回議事録(案)について確認を行なった。以下の4箇所を修正することで、議事録案は承認された。

- 5-(3-5) JESM → JSME
- 5-(4-1) 方針した。 → 方針とした。
- 5-(4-2-1) 許容表 → 許容応力表
- 5-(4-2-4) 伊藤委員 → 伊藤副主査

(2) 追補版原稿および説明資料の確認

(2-1) 対比表(本文 KHI)

[資料 75-2-1]

作成資料のとおりとする。

(2-2) 対比表、追補原稿(表Ⅱ-1-2 備考 東電)

[資料 75-2-1,2-3]

作成資料のとおりとする。

(2-3) 対比表(表Ⅱ-2-2 備考 中電)

[資料 75-2-1]

作成資料のとおりとする。

(2-4) 対比表、許容応力表(表Ⅲ-3-1 新日鉄住金)

[資料 75-2-1,2-2]

作成資料のとおりとする。

(2-5) 対比表(補遺 KHI)

[資料 75-2-1]

○補遺 12.許容応力表の改訂における考え方について (4)本規格 201X 年追補版における許容応力の策定

・H26 年 5 月と 9 月の火技解釈の改訂が 2012 年版の規格に反映済みかどうか等の観点から説明文および表に記載する鋼種を見直す。

表に残す鋼種・・・ J 火 SFVAF28 鋼、J 火 STPA28 鋼、J 火 SFVAF22J1 鋼、
J 火 STPA24J1 鋼、J 火 STBA24J1 鋼、J 火 SCMV4J1 鋼、
J 火 SCPH91 鋼

○上記以外は、作成資料のとおりとする。

(2-6) 許容応力表(表Ⅱ-1-3 関電)

[資料 75-2-2]

ASME Code Case 材 3 鋼種 (CC2192,CC2199(Tube),CC2199(Tube 以外)の許容応力の見直しについて説明。

作成資料のとおり追補版に反映する。

(2-7) 追補原稿(外圧チャート表 G、物理的性質表 TM-1 主査)

[資料 75-2-3]

外圧チャート表 G の Do/T が 30 のところの 1 行目の L/Do の欄が空欄だったので(脱字)、0.16 を記載することを説明。

物理的性質表 TM-1 についても再確認する

作成資料のとおりとする。

(2-8) 許容応力表(表Ⅱ-1-1)、対比表(表Ⅱ-1-1 備考) IHI

[資料 75-2-4-1,2]

追加になった変更点について説明。2A：適用温度の誤記修正、2B：規定耐力の記載漏れ修正、31：鋼種追加 が追加となった。

作成資料のとおり修正する。

(2-9) 許容応力表(表Ⅱ-2-1、MHI)

[資料 75-2-5]

前回説明済みの、火技解釈の改定に係るものを反映する。

(2-10) 表Ⅱ-3-3 備考 新日鉄住金

[資料 75-2-6]

注釈の(14),(15),(16)に加えて、前回までの審議で修正予定の注釈についても誤記修正する。

■今後の進め方

○追補提案用に用意する資料は、鏡（基本的考え方、見直しの概要が分かるもの A4 1 枚程度）、本文・備考の対比表、許容応力表（改訂変更箇所一覧、許容応力表）とする。資料の準備は、三役および事務局に一任とする。

対比表、許容応力表は、各委員が本日の審議結果を反映したものを、20日（金）を目途にCSキャビネットの指定のフォルダに保存する。指定フォルダは、事務局から別途連絡。

- 対比表は変更箇所のみ記載する。また、規定の中の場所が分かるよう項目ごとにページ番号を入れる。
- 並行して、各委員が追補原稿の準備を進める。追補の発行は、変更箇所のみピンク色の用紙に印刷し、差替えるかたちで行う。このため、追補原稿は変更箇所があるページの表と裏の原稿を用意する。許容応力表で変更箇所が多い場合は、許容応力表全体を差替える。各委員が変更箇所数などを考慮してケースバイケースで判断する。
- 事例規格に係る基本規定の変更は、主査にて行う。
- 表Ⅱ-3-1(BHK 担当分)で追補版に反映する箇所があるかどうか確認する。

6. 次回開催予定

日 時 : 2015年4月8日(水) 13:30~17:00

場 所 : 日本機械学会 第3,4会議室